

注3

大学番号：520

[平成22年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

広島文教女子大学 人間科学部 グローバルコミュニケーション学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 武田学園
平成24年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	学生サポート課
職名・氏名	課長 田 川 知 秀
電話番号	082-814-3191
（夜間）	082-814-3191
F A X	082-815-6801
e-mail	ttagawa@h-bunkyo.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には届出時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成24年3月12日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書

等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1. 調査対象大学との概要等・・・・・・・・・・ 1
2. 授業科目の概要・・・・・・・・・・ 5
3. 施設・設備の整備状況，経費・・・・・・・・ 11
4. 既設大学等の状況・・・・・・・・・・ 12
5. 教員組織の状況・・・・・・・・・・ 13
6. 留意事項に対する履行状況等・・・・・・・・ 16
7. その他全般的事項・・・・・・・・・・ 18

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 武田学園

(2) 大学名

広島文教女子大学

(3) 大学の位置

〒731-0295
広島県広島市安佐北区可部東一丁目2番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(タケダ テツジ) 武田 哲 司 (平成13年4月1日)		
学 長	(カドシゲ ハジメ) 角 重 始 (平成16年4月1日)		
学 部 長			
学科長等	(コニシ ヒロノブ) 小 西 弘 信	(オカバ シゲミツ) 岡 馬 重 充	校務分掌の変更に伴う交替 (H22.4.1) (22)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成21年度に報告済の内容 → (21)

平成24年度に報告する内容 → (24)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成21年度開設の4年制の学科の場合(平成24年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
人間科学部 グローバルコミュニケーション 学士(文学)	4年	70人	年次 5人	290人	

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成21年度	平成22年度	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	70 (—) [—]	— (—) [—]	70 (—) [—]	— (—) [—]	70 (—) [—]	— (—) [—]	0.37倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	64 (—) [—]	— (—) [—]	102 (—) [—]	— (—) [—]	90 (—) [—]	— (—) [—]		
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	64 (—) [—]	— (—) [—]	97 (—) [—]	— (—) [—]	90 (—) [—]	— (—) [—]		
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	62 (—) [—]	— (—) [—]	94 (—) [—]	— (—) [—]	87 (—) [—]	— (—) [—]		
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	20 (—) [—]	— (—) [—]	31 (—) [—]	— (—) [—]	26 (—) [—]	— (—) [—]		
入学定員超過率 B/A	—	—	0.28	—	0.44	—	0.37	—		

- (注) ・ 数字は, 平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。

なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			19	—	29	—	26	—	
2年次					[-]	[-]	[-]	[-]	
					19	—	29	—	
3年次							[-]	[-]	
							19	—	
4年次									
計	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	—	—	19	—	48	—	74	—	

(注) ・ 数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。

(注) ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成21年度 入学者	— 人	— 人	平成21年度	— 人	— 人		%
			平成22年度	— 人	— 人		
			平成23年度	— 人	— 人		
			平成24年度	— 人	— 人		
平成22年度 入学者	20 人	1 人	平成22年度	1 人	— 人	他の教育機関への入学・転学(1人)	5.0 %
			平成23年度	0 人	— 人		
			平成24年度	0 人	— 人		
平成23年度 入学者	31 人	2 人	平成23年度	2 人	— 人	就学意欲の低下(2人)	6.5 %
			平成24年度	0 人	— 人		
平成24年度 入学者	26 人	0 人	平成24年度	0 人	— 人		0 %
合 計	77 人	3 人					3.9 %

(注)・数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成24年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<人間科学部 グローバルコミュニケーション学科>

(1) 授業科目表

科目区分		授業科目の名称								備 考
人間 学 科 目 群		文教学入門	1前	2			1			
		キャンパスライフプランニング	1前	2			1			
		人間科学入門	1後	2			1			
		人間科学基礎演習	1後	1			1			
		フィールドワーク演習	2前	1			1			
		人生論	3後		2		1			
		大学での学びⅠ	1前		2		1			
		大学での学びⅡ	1後		2		1			
	現代 教 養 科 目 群	A	現代思想と哲学	3・4前		2				
日本とヒロシマの歴史			3・4後		2		1			
文学を読む意味			3・4前		2		1			
言葉とコミュニケーション			3・4後		2			1		
B		くらしの中の心理学	3・4前		2		1			
		くらしと経済	3・4後		2			1		
		くらしと法律	3・4前		2					
		くらしと社会福祉	3・4後		2		1			
C		社会と生命科学	3・4前		2		1			
		くらしの科学	3・4後		2		1			
		食の科学	3・4前		2			1		
		からだの科学	3・4後		2			1		
D		欧米と日本	3・4前		2		1			
		アジアと日本	3・4後		2		1			
		地域と社会	3・4前		2				1	
		子どもと社会	3・4後		2		1			
		社会と女性	3・4前		2		1			
		メディアと社会	3・4後		2		1			
		環境の科学	3・4前		2		1			
E	日本国憲法	2前後		2						
	人権問題の歩みとその展望	2後		2						
	健康とスポーツ	2前		2		1				
	西洋の美術の歴史	3・4前		2			1			
	日本とアジアの美術の歴史	3・4後		2		1				
	民俗学	3・4前		2						
	自然科学史	3・4後		2		1				
教 養 教 育	国際 教 育	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					3	
		英語コミュニケーションⅡ	1後	1					3	
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1					3	
		英語コミュニケーションⅣ	2後	1					3	
		イングリッシュワークショップⅠ	1前	1					3	
		イングリッシュワークショップⅡ	1後	1					3	
		イングリッシュワークショップⅢ	2前	1					3	
		イングリッシュワークショップⅣ	2後	1					3	
		イングリッシュワークショップⅤ	3前		1				1	
		イングリッシュワークショップⅥ	3後		1				1	
		イングリッシュワークショップⅦ	4前		1				1	
		イングリッシュワークショップⅧ	4後		1				1	
		ドイツ語Ⅰ	3前		1					

科目	スキル教育科目群	ドイツ語Ⅱ	3後	1							
		ドイツ語Ⅲ	4前	1							
		ドイツ語Ⅳ	4後	1							
		フランス語Ⅰ	3前	1			1				
		フランス語Ⅱ	3後	1			1				
		フランス語Ⅲ	4前	1			1				
		フランス語Ⅳ	4後	1			1				
		中国語Ⅰ	3前	1			1				
		中国語Ⅱ	3後	1			1				
		中国語Ⅲ	4前	1			1				
		中国語Ⅳ	4後	1			1				
		情報教育系	情報処理演習Ⅰ	1前	1				1		
			情報処理演習Ⅱ	1後	1				1		
			ウェブデザイン概論	3前		2			1		
	デザイン概論		3後		2			1			
	ウェブデザイン基礎演習Ⅰ		3前		1				1		
	ウェブデザイン基礎演習Ⅱ		3後		1			1			
	ウェブデザイン演習Ⅰ		4前		1				1		
	ウェブデザイン演習Ⅱ		4後		1		1				
	マルチメディア演習Ⅰ		4前		1		1				
	マルチメディア演習Ⅱ		4後		1		1				
	データベース		4前		2			1			
	情報倫理	4後		2		1					
	生涯教育系	運動学演習Ⅰ	1前	1				1			
		運動学演習Ⅱ	1後	1			1				
		運動学演習Ⅲ	1・2・3・4前		1				1		
		運動学演習Ⅳ	1・2・3・4後		1		1				
		生涯スポーツ演習Ⅰ	3・4前		1		1				
		生涯スポーツ演習Ⅱ	3・4後		1			1			
		制作技法演習Ⅰ	3・4前		1			1			
		制作技法演習Ⅱ	3・4後		1			1			
	障害者コミュニケーション技術	1前後		1							
	キャリア形成科目	キャリア形成概論Ⅰ	1後		2				1		
キャリア形成概論Ⅱ		2前		2				1			
コミュニケーションとソーシャルスキル		2前		1					1		
インターンシップ		2前		1					1		
ビジネス文書		2後		2			1				
プレゼンテーション技法		2後		1			1				
クリエイティブマネジメント		3前		2			1				
マーケティング		3前		2			1				
企業経営と数理		3後		2		1					
経営情報システム		3後		2			1				
	Basic English CommunicationⅠ	1前	2					3			
	Basic English CommunicationⅡ	1後	2					3			
	Reading StrategiesⅠ	1前	1					3			
	Reading StrategiesⅡ	1後	1					3			
	Reading StrategiesⅢ	2前	1					3			
	Reading StrategiesⅣ	2後	1					3			
	Writing StrategiesⅠ	1前	1					3			
	Writing StrategiesⅡ	1後	1					3			
	Writing StrategiesⅢ	2前	1					3			

英語 コミュニケーション	Writing Strategies IV	2後	1					3			
	International Communication Strategies I	2前	1					3			
	International Communication Strategies II	2後	1					3			
	International Communication Strategies III	3前	1					3			
	International Communication Strategies IV	3後	1					3			
	TOEIC I	2前	1				2 1 2	2 3 2			平成22年3月三熊祥文教授辞任のため平成22年度より担当者の変更(22) 平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当者の変更(23)
	TOEIC II	2後	1				2 1 2	2 3 2			平成22年3月三熊祥文教授辞任のため平成22年度より担当者の変更(22) 平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当者の変更(23)
	英語学基礎演習 I	1前	1				2 1 2	2 3 2			平成22年3月三熊祥文教授辞任のため平成22年度より担当者の変更(22) 平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当者の変更(23)
	英語学基礎演習 II	1後	1				2 1 2	2 3 2			平成22年3月三熊祥文教授辞任のため平成22年度より担当者の変更(22) 平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当者の変更(23)
	英語学概論 英米文学概論	2前 2前		2 2			1 1				
グローバル コミュニケーション と キャリア 形成	グローバルコミュニケーション論	1前	2				1				
	異文化理解	1後	2				1	1			平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当者の変更(23)
	WEBコミュニケーション演習 I	2前	1				1				
	マルチメディアコミュニケーション I	2後	1				1				
	話しことば概論	1前	2								
	話しことば表現演習	1後	1								
	日本語文章論	2前		2							
	日本語文章表現演習	2後		1							
	現代ビジネス基礎 I (経済学の基礎知識)	1前	2					1			
	現代ビジネス基礎 II (経営戦略の基礎知識)	1後	2					1			
現代ビジネス基礎 III (ビジネス関連法規・法律等)	2前		2				1				
現代ビジネス基礎 IV (会計・ビジネス統計の基礎)	2後		2				1				
オフィスコミュニケーション I	1前	1									
オフィスコミュニケーション II	1後	1									
	Tourism English I	3・4前		1					1		
	Tourism English II	3・4後		1					1		
	Business Communication I	3・4前		1					1		
	Business Communication II	3・4後		1					1		
	English for Education I	3・4前		1					1		
	English for Education II	3・4後		1					1		
	Academic English I	3・4前		1					1		

英語コミュニケーション	Academic English II	3・4後	1			1			
	English in Popular Culture I	3・4前	1			1			
	English in Popular Culture II	3・4後	1			1			
	Hospitality English I	3・4前	1			1			
	Hospitality English II	3・4後	1			1			
	英語学研究	2後	2			1			
	英語学講義	4前	2			1			
	英語の音声	3前	2			+	1		平成22年3月三熊祥文教授辞任のため平成22年度より担当者の変更(22) 平成24年3月宮本弦教授辞任のため平成24年度より担当者の変更(24)
	英語ディスコース研究	3後	2			1			
	英米文学研究	2後	2				1		
	英米文学講義	4前	2				1		
	英米文学史	4後	2				1		
	言語習得論	2後	2			1			平成22年3月三熊祥文教授辞任のため平成22年度より担当者の変更(22)
	児童英語入門	2前	2			+		1	平成23年3月武田さち子講師辞任のため平成23年度より担当者の変更(23) 平成24年3月宮本弦教授辞任のため平成24年度より担当者の変更(24)
児童英語教育法	3前	4			+		1	平成23年3月武田さち子講師辞任のため平成23年度より担当者の変更(23) 平成24年3月宮本弦教授辞任のため平成24年度より担当者の変更(24)	
児童英語指導法	3後	4			+		1	平成23年3月武田さち子講師辞任のため平成23年度より担当者の変更(23) 平成24年3月宮本弦教授辞任のため平成24年度より担当者の変更(24)	
児童英語実習	4前	2			+		1	平成23年3月武田さち子講師辞任のため平成23年度より担当者の変更(23) 平成24年3月宮本弦教授辞任のため平成24年度より担当者の変更(24)	
英語フィールドワーク	2・3・4前後	1			1		+	平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当者の変更(23)	
グローバルコミュニケーションと	日本語の音声	3前	2						
	日本語の表現	3後	2						
	世界史の中の日本	2前	2			1			
	英語文化圏論	2後	2				1		平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当者の変更(23)
	漢字文化圏論	3前	2						
	日本文化論	3後	2			1			
	国際社会と日本の役割	4前	2			1			
	観光地理Ⅰ(国内)	3前	2			1			
	観光地理Ⅱ(海外)	3後	2			1			
	マルチメディアコミュニケーションⅡ	3前	1						
	WEBコミュニケーション演習Ⅱ	3後	1			1			
ロジカルシンキング	2前	2					1		
クリティカルシンキング	2後	2					1		

キャリア形成	ファイナンスの基礎	3前		2			1				
	ロジスティックスの基礎	3後		2			1				
	観光産業論	3前		2							
	旅行業概論	3後		2							
	e-ビジネス	4前		2							
	起業研究	4後		2							
	産業心理学	4前		2							
	キャリア・ピア・サポート基礎	3前		2							
	キャリア・ピア・サポート応用	3後		1							
	卒業研究	総合演習Ⅰ	3前		1		3	1			
総合演習Ⅱ		3後		1		3	1				
卒業研究		4前後	4			5	3			平成22年3月三熊祥文教授辞任のため平成22年度より担当者の変更(22) 平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当者の変更(23)	
合計 (173科目)			59	209	0	20	14	14	0	0	

- (注) ・届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成23年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 45	科目 128	科目 0	科目 173	科目 [0]	科目 [0]	科目 [0]	科目 [0]	

- (注) ・未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。(ただし, 未開講科目があった場合は, (1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	建物移築 (24)		
	校舎敷地	26,362㎡	0㎡	0㎡	26,362㎡			
	運動場用地	15,912㎡	0㎡	0㎡	15,912㎡			
	小 計	42,274㎡	0㎡	0㎡	42,274㎡			
	そ の 他	27,433㎡ 28,607㎡	0㎡	0㎡	28,607㎡			
	合 計	69,707㎡ 70,881㎡	0㎡	0㎡	70,881㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	24,610㎡ (24,610㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	24,610㎡ (24,610㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	21室	37室	23室	4室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 2人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	グローバルコミュニケーション学科		13 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分 学術雑誌 210冊 【40冊】 図書の増刷, 学術図書の廃 棄, 視聴覚資料の追加(24)
	人間科学部 グローバルコミュニケー ション学科	5,000 [700] (3,455 [549]) -(3,198 [506])	60 [15] (50 [10]) -(51 [10])	6 [5] (4 [4])	1,000 (843) -(812)	80 (80)	0 (0)	
	計	5,000 [700] (3,455 [549]) -(3,198 [506])	60 [15] (50 [10]) -(51 [10])	6 [5] (4 [4])	1,000 (843) -(812)	80 (80)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	3,000㎡		258席		300,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	3,103㎡		運動場: 4,641㎡	テニスコート: 2,769㎡	プール: 827㎡			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	500千円	2,000千円	2,000千円
	共同研究費等	— 千円	— 千円	設備購入費	2,000千円	500千円	500千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,240千円	960千円	960千円	960千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 届出時の計画を, 届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合, 複数の様式に分ける必要はありません。なお, 「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を, その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は, その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については, 上段に完成年度の予定数値を, 下段には平成24年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては, 変更部分を赤字で見え消し修正するとともに, その理由及び報告年度「(24)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお, 昨年度の報告において赤字で見え消した部分については, 黒字で記入してください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少, 建築計画の遅延)がある場合には, 「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については, 当該項目を記載する必要はありません。

4 既設大学等の状況

大学の名称	広島文教女子大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	平成22年度より学生募集停止
人間科学部	4年	人	3年次	人		倍		広島市安佐北区可部東一丁目2-1	
人間言語学科		—	人	—	文学	—	H12		
初等教育学科		80		320	文学	1.51	S56		
人間福祉学科		100	20	440	文学	0.44	H12		
心理学科		70	10	300	文学	0.5	H14		
人間栄養学科		70		280	栄養学	1.13	H14		
グローバルコミュニケーション学科		70	5	290	文学	0.34	H22		
大学の名称	〇〇短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科（AC対象学部等を含む）について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成24年5月1日現在の状況を記入してください。

（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<人間科学部 グローバルコミュニケーション学科>

(1) 担当教員表

認可時の計画				変更状況				備考			
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任兼任兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月				
専任	教授	三熊 祥文 (48)	平成22年4月	英語学基礎演習Ⅰ 英語学基礎演習Ⅱ TOEICⅠ TOEICⅡ 英語の音声 言語習得論 卒業研究	専任	教授	宮本一弦 (55)	平成22年4月	英語の音声 卒業研究	平成22年3月三熊祥文教授辞任のため平成22年度より担当の変更(22)	
					専任	准教授	Timothy Buthod (44)	平成22年4月	英語学基礎演習Ⅰ 英語学基礎演習Ⅱ		
					専任	准教授	三戸 祥子 (61)	平成22年4月	TOEICⅠ TOEICⅡ		
					専任	教授	南村 俊夫 (74)	平成22年4月	言語習得論		
					専任	教授	笹原豊造 (60)	平成23年4月	英語基礎演習Ⅰ 英語基礎演習Ⅱ		平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当の変更(23)
					専任	准教授	上利学 (45)	平成24年4月	英語の音声 卒業研究		平成24年3月宮本教授辞任のため平成24年度より担当の変更(24)
専任	准教授	Timothy Buthod (44)	平成22年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ 異文化理解 TOEICⅠ TOEICⅡ 英語フィールドワーク 英語文化圏論	専任	教授	笹原豊造 (60)	平成23年4月	異文化理解 TOEICⅠ TOEICⅡ 卒業研究	平成23年度3月Timothy Buthod准教授辞任のため平成23年度より担当の変更(23)	
					専任	教授	小西弘信 (48)	平成22年4月	英語フィールドワーク		
					専任	准教授	上利学 (45)	平成22年4月	英語文化圏論		
							未定		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ		
					兼任	講師	原野葉子 (36)	平成24年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ		平成23年度未定であった担当者を決定する(24)
専任	講師	Hamish Gillies (37)	平成22年4月	Reading StrategiesⅠ Reading StrategiesⅡ Reading StrategiesⅢ Reading StrategiesⅣ Writing strategiesⅠ Writing strategiesⅡ Writing strategiesⅢ Writing strategiesⅣ International Communication StrategiesⅠ International Communication StrategiesⅡ International Communication StrategiesⅢ International Communication StrategiesⅣ Tourism EnglishⅠ Tourism EnglishⅡ Academic EnglishⅠ Academic EnglishⅡ	専任	講師	Erica Sponberg (29)	平成23年4月	Reading StrategiesⅠ Reading StrategiesⅡ Reading StrategiesⅢ Reading StrategiesⅣ Tourism EnglishⅠ Tourism EnglishⅡ	平成23年度3月Hamish Gillies講師辞任のため平成23年度より担当の変更(22)	
					専任	講師	Annie Semmerlroth (32)	平成23年4月	Academic EnglishⅠ Academic EnglishⅡ		
					専任	講師	Brian McMillan (39)	平成22年4月	Writing strategiesⅠ Writing strategiesⅡ Writing strategiesⅢ Writing strategiesⅣ International Communication StrategiesⅠ International Communication StrategiesⅡ International Communication StrategiesⅢ International Communication StrategiesⅣ		
					専任	講師	Caleb Foale (43)	平成24年4月	Writing strategiesⅠ Writing strategiesⅡ Writing strategiesⅢ Writing strategiesⅣ		平成24年3月Brian Mcmillan講師辞任のため担当者変更(24)
					兼任	講師	Lyndon Lusk Lehde (34)	平成24年4月	International Communication StrategiesⅠ International Communication StrategiesⅡ		
					兼任	講師	Rebecca Jane Schmidt (36)	平成24年4月	International Communication StrategiesⅢ International Communication StrategiesⅣ		

専任	講師	Lee Atkinson (34)	平成22年4月	Reading Strategies I Reading Strategies II Reading Strategies III Reading Strategies IV Writing strategies I Writing strategies II Writing strategies III Writing strategies IV International Communication Strategies I International Communication Strategies II International Communication Strategies III International Communication Strategies IV English for Education I English for Education II Hospitality English I Hospitality English II	専任	講師	Erica Sponberg (29)	平成23年4月	Writing strategies III Writing strategies IV International Communication Strategies I International Communication Strategies II	平成23年度3月Lee Atkinson講師辞任のため平成23年度より担当者の変更(22)
					専任	講師	Annie Semmerloth (32)	平成23年4月	Reading Strategies I Reading Strategies II Reading Strategies III Reading Strategies IV Writing strategies I Writing strategies II International Communication Strategies III International Communication Strategies IV	
					専任	講師	Brian McMillan (39)	平成22年4月	English for Education I English for Education II Hospitality English I Hospitality English II	
					兼任	講師	Kelly Eileen Rose (31)	平成24年4月	English for Education I English for Education II	
					専任	講師	小館梓 (29)	平成24年4月	Hospitality English I Hospitality English II	
専任	講師	武田さち子 (41)	平成23年4月	児童英語入門 児童英語教育法 児童英語指導法 児童英語実習	専任	教授	宮本一弦 (55)	平成22年4月	児童英語入門 児童英語教育法 児童英語指導法 児童英語実習	平成23年度3月武田さち子就任辞任のため平成23年度より担当者の変更(22)
					兼任	講師	Carls Wilson (36)	平成24年4月	児童英語入門 児童英語教育法 児童英語指導法	平成24年3月宮本弦教授辞任のため平成24年度より担当者の変更(24)
					専任	教授	笹原豊造 (61)	平成24年4月	児童英語実習	

- (注) ・届出の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・年齢は、「認可時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成24年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(2) 専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
4	4	4		12		4	3	5	0	12	1	
(4)	(4)	(4)	()	(11)	(1)	[0]	(△1)	[1]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	三 熊 祥 文	教授辞任（広島工業大学へ転出）のため。
2	准教授	Timothy Buthod	一身上の都合により退職。
3	講師	Hamish Gillies	他大学に転任（都留文化大学）
4	講師	Lee Atkinson	一身上の都合により退職。
5	講師	武田 さち子	海外より帰国できないため
6	教授	宮本 弦	他大学に転任（白百合女子大学）
7	講師	Brian Mcmillan	一身上の都合により退職（帰国）

- (注) ・専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
 ・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」 設置計画時においては、予測できなかった。本人の意思により、辞任を承諾せざるを得なかった。
 「学生への周知」 入学式当日に入学学生に学科専任教員紹介において、教員の変更を周知させた。

「大学の所見」 設置計画時においては、予測できなかった。本人の意思により、辞任を承諾せざるを得なかった。
 「学生への周知」 新入生には、入学式当日に学科専任教員紹介において、教員の紹介を周知させた。在学生には、年度始めの
 チューターガイダンスにて紹介し、周知を図った。

- (注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
 ・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況調査時 (平成23年2月)	人間科学部人間福祉学科、心理学科、グローバルコミュニケーション学科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、今後の定員の在り方について検討すること。	<p>(1) 人間福祉学科については、福祉・介護人材の確保を目的とした広島県の進路選択学生等支援事業と連携しながら、専門員の配置による高校訪問の実施、地域イベントの開催等を通して福祉職の魅力を伝えた結果、充足率70%は達しなかったものの、平成23年度入学者数は、前年度よりも8名増となった。</p> <p>(2) 心理学科については、学科の人材育成目標を踏まえ、「日常生活に即した心理学」「人を支える心理学」をコンセプトに、平成23年度から従来の3コースを心理臨床と健康・社会心理学の2コースに再編し、心理学の興味深さや有効性のアピールに努めた結果、平成23年度入学者数は定員の70%を回復した。</p> <p>(3) グローバルコミュニケーション学科については、受験生に教育内容や出口イメージを十分伝えきれていなかったという観点から、学科のネイティブ教員を中心に英語教育研究会を組織し、広島市教育委員会と連携して、高校教諭を対象とする研究会を実施した結果、平成23年度入学者数は31名に止まったが、志願者数は102名となり、前年度比60%増となった。</p>	各学科の努力によって平成23年度入試では、一定の改善が見られたが、安定的な定員確保を目指すためには、学科の入学定員及び編入学定員の見直しは喫緊の課題である。現在、平成25年度入試を目前に、定員超過の状況にある初等教育学科と未充足の3学科との間で入学定員等の付け替えを検討中である。
設置計画履行状況調査時 (平成24年2月)	<p>(1) 編入学者の単位認定について、大学教育の水準に相応しい内容であるかを精査した上で、科目ごとに個別に認定を行うこと。</p> <p>(2) 人間科学部初等教育学科の入学定員超過の是正に努めること。</p>	<p>編入学者の単位認定については、科目ごとの個別認定を行うよう規程改正を行い、平成24年4月1日より施行することとした。</p> <p>ここ数年間の入学者の動向を見守っている中で、受験生の本学科への期待度が高くなってきている現状であることが窺える。このことを受けて、平成25年度より、入学定員を現在の80名から100名へと改訂し、受験生の期待に応えることとした。</p>	

<p>設置計画履行状況調査時 (平成24年2月)</p>	<p>(3) 人間科学部グローバルコミュニケーション学科, 人間福祉学科, 心理学科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから, 学生確保に努めるとともに, 入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>(1) グローバルコミュニケーション学科は, 昨年度より実施している英語教育研究会(GE研)を継続しつつ, 高校教員との連携を深める。新たな取組として, 3年生向け科目「キャリアピアサポート」「総合演習」において, 地域と連携し, 就職に直結したプログラムを展開させていく。この授業を通じて, 社会人としての基礎力を確立し, 地域と連携しながら就職支援に万全を尽くし, 就職実績を上げることで受験生増加に繋げる。</p> <p>(2) 人間福祉学科では, 昨年度同様の専門員による高校訪問, 高校における説明会・模擬授業の実施, 学科独自のパンフレット作成, 地域イベントの開催等に加え, 福祉専門職への理解を図る本学独自のDVDの作成を行い, 積極的な広報活動を行ってきた。その結果, 本年度入学生は増加したものの微増に留まった。このことを受けて, 入学定員の見直しを実施することとし, 平成25年度より定員を20名削減することとした。</p> <p>(3) 心理学科では, 昨年度新カリキュラムのアピールポイントである導入教育科目の実施状況や, 就職率2年連続100%達成を前面に出した広報活動により, 入学者増に力を注いできた。その結果, 志願者数は昨年度より30名増, 合格者も2名増となった。しかしながら, 入学者の歩留まりが悪く, 定員確保には至らなかった。平成24年度に向けては, この就職難の中での就職率3年連続100%を強調した広報活動を拡充し, 受験者数の増と入学者歩留まり向上を目指す。</p>	
----------------------------------	--	---	--

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には, 当該設置計画履行状況調査の結果, 付された留意事項に対する履行状況等について具体的に記入するとともに, その履行状況等を裏付ける資料があれば添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については, 指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には, 「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については, 該当項目を記載する必要はありません。

7 その他全般的事項

<人間科学部 グローバルコミュニケーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

届出時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位数 124単位、 必修科目39単位、 選択科目23単位 上記単位のほか、卒業時における入学時からの累積GPA値が1.5以上であること。 ② 施設・設備 a 講義室21室 b 図書5,000冊	

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 大学評価委員会の下部組織として、ファカルティ・ディベロップメント専門委員会が設置されている。FD活動の推進は、大学における教育・研究に関する総合向上の要となるとの認識から、各学科長及び各学科から選出された委員がメンバーとなっている。実質的な運営は、この学科選出の運営委員（4名）及び委員長によって行われている。 なお、大学評価委員会規程（別紙1）及びFD専門委員会規程（別紙2）は、別紙のとおりである。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） FD委員会の定例会は、基本的に1ヶ月に1回（第4金曜日）、委員長と運営委員によって開催される。ただし、特に重要な案件については、大学評価委員長及び各学科長出席の上で、審議あるいは報告・連絡を行う場合がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会は、2ヶ月に1回ほどのペース（年6回程度）の実施となっている。運営委員は毎回出席、各学科長については、FD活動や取り組みの進捗状況の報告と審議を行うことを中心に年2回ほど出席する。 ・ FD活動の現状把握と公開 個人及び組織におけるFD活動の可視化とデータ蓄積及び公開。毎年度、各部署及び個人から実践したFD活動の報告を受け、学内で共有している。 ・ 他大学FD活動の把握 ティーチングポートフォリオ、教員相互の授業参観、組織的なカリキュラム編成手法についての情報収集と精査 ・ 各地で行われているFDに関する研修会に委員が参加・報告 他大学との情報の共有と連携、研修の内容について学内に報告・周知する。 c 委員会の審議事項等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価アンケートの計画・実施に関すること ・ FD活動案の立案と実施に関すること ・ 学内のFD活動の状況調査・分析、データの蓄積、及びこれに基づくFD活動報告の作成と公開に関すること ・ 学外における、FDに関する情報収集・分析調査・研究に関すること
--

② 実施状況

a 実施内容

1. 授業評価アンケートの実施及び分析
2. FD活動案の立案と実施
3. 学内のFD活動の状況調査・分析、データの蓄積及びFD活動報告の作成
4. 学外における、FDに関する情報収集・分析調査・研究

b 実施方法

1. 授業アンケートを、毎年2回（前期末、後期末）、各教員について1科目ずつ実施。アンケート結果を踏まえ、各教員が結果の分析と次学期（次年度）にむけてのFD計画案を提示する。
2. FD専門委員会においてFD活動案を作成し、運営委員会を通して、各学科・教養教育部の了承を得て、実施する。
3. 報告書『文教FD』を作成し、当該年度のFD活動に状況等を、学内LAN及び大学HP上で公開する。
4. 学外で行われているFDに関する研修会等に委員が参加し、他大学と情報交換及び連携を図り、研修の内容について学内に報告し、周知させる。

・授業評価アンケート

学科ごとに、特に主要となる科目を授業評価対象科目として設定し（原則として、必修科目は全て）、前後期末の年2回、紙媒体によるマークシート方式で実施している。アンケートの結果については、学科単位で「ふりかえり」を行う。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 授業アンケートに関しては、前後期ともほぼ全教員（含非常勤講師）がアンケート及びその結果の分析を行った。平成21年度及び平成22年度前期アンケートは、学内LANによって実施したが、回答率の低下を回復できなかった。そのため平成22年度後期には、紙ベースによるアンケートを実施することによって、受講者ほぼ全員から回答を回収し、有効なデータを得ることができた。
2. 平成22年度は、各学科、教養教育部において、FD重点科目の設定を行った。
3. 平成22年度は、1年次後期の全学必須科目である「人間科学入門」において、授業改善のための授業参観を実施した。
4. 平成22年6月に、平成21年度『文教D』を、学内LAN及び大学HP上で公開した。
5. 比治山大学高等教育研究所開設記念特別講演「FDの到達点と展望」（平成22年7月25日）に委員1名が参加し、委員会で報告を行った。
6. 岡山大学主催FD・SDフォーラム（平成22年9月10日）に委員1名が参加し、委員会で報告を行った。

現状把握と公開については、「文教FD」という報告書を作成し、学内LAN及び大学ホームページ上で公開しており、全ての教員はその内容にアクセスできる。さらに、教員参加の研修会において、報告を行っている。FDの情報収集に関しては、ファカルティ・ディベロップメント専門委員会の運営委員が中心となって行っており、各地での研修会等に積極的に参加するようにしている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 原則すべての教員が、学生からの授業評価を受けた後、授業改善を提示し、これに取り組んでいる。今後も継続して実施し、そのデータを蓄積することで、より効果の高い改善が実現されると考えている。
2. 授業評価アンケートは、現状では紙ベースによって実施するのが適当であると思われるが、費用の面でなお問題が残る。
3. 平成22年度からは、重点的にFDを行う科目を設定したが、各学科の特性を活かした運用が必要であり、その点を踏まえたFD活動案の作成に関しては、23年度に持ち越された。なお、「人間科学入門」の授業参観は、教員20名、職員4名の参加を得て、一定の成果を上げた。
4. 22年度のFD活動の報告書『文教FD』は、23年度に学内LAN及び大学HP上で公開予定である。
5. 学外における、FDに関する情報収集・分析調査・研究は、非常に有益である。FD専門委員以外の教職員においても参加を呼びかけていきたい。

授業評価対象科目の設定、及び学科単位でのアンケート結果の「ふりかえり」という、授業評価アンケートについての組織的な取り組みは、平成23年度より新たに始められたものである。なお、授業評価科目を設定するとは言え、専任教員全員が最低1科目以上は授業評価を受けることとなっており、基本的に全教員参加の取り組みである。今後も継続して実施し、そのデータを蓄積することで、より効果の高い改善の実現を目指している。

別紙 1

広島文教女子大学評価委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、広島文教女子大学（以下「本学」という。）学則第1条の2第2項及び本学大学院学則第3条第2項の規定に基づき、自己点検評価、外部評価及び第三者評価並びに教員のファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(大学評価委員会)

第2条 前条に定める目的を達成するために、広島文教女子大学評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 外部評価及び第三者評価の企画・立案、評価項目の設定・実施及びその結果の公表に関すること。
- (2) 外部評価及び第三者評価の評価基準の例示に関すること。
- (3) 外部評価及び第三者評価への対応及びその結果の公表に関すること。
- (4) 自己点検評価の結果に基づく学長への報告に関すること。
- (5) 改善の達成度の検証結果に基づく学長への改善についての提言に関すること。
- (6) 自己点検評価及びFDの年度基本方針並びに活動方針の策定に関すること。
- (7) その他、外部評価及び第三者評価に関すること。

(組織)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 附属図書館長
- (4) 自己点検・評価専門委員長
- (5) 教育研究企画委員長
- (6) FD 専門委員長
- (7) 研究科長
- (8) 各学科長等
- (9) 各センター長
- (10) 自己点検・評価専門委員会委員
- (11) 学園統括部長
- (12) 学園統括部学長補佐室長
- (13) 学園統括部参与
- (14) 学園統括部総合支援課長
- (15) 学長が必要と認めた者若干名

(任期)

第5条 前条第16号の委員の任期は、2年とし、再任は妨げない。ただし、任期途中で辞任又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第6条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員会を代表し、その業務を統括する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 4 委員会は、必要に応じ、委員長が招集し、その会議の議長となる。
- 5 委員会に小委員会を設置することができる。
- 6 委員長は、必要があると認めたときは、委員会以外の教職員を委員会又は小委員会の会議に出席させることができる。

第7条 委員長及び副委員長は、学長が任命する。

(専門委員会)

第8条 本学の自己点検評価の実施に関し、必要な事項を調査検討するため、広島文教女子大学自己点検・評価専門委員会（以下「自己点検・評価専門委員会」という。）を置く。

2 自己点検・評価専門委員会の活動及び運営に関して必要な事項は、別に定める。

第9条 本学のFD活動の実施に関し、必要な事項を推進し、検討するため、広島文教女子大学FD専門委員会（以下「FD専門委員会」という。）を置く。

2 FD専門委員会の活動及び運営に関して必要な事項は、別に定める。

(外部評価)

第10条 外部評価は、自己点検評価による点検及び評価に関する資料に基づき、本学全体を対象として行う。

2 委員会は、外部評価の整理及び分析を行い、その結果を刊行物に掲載等の方法により、学内外に公表するものとする。

3 外部評価の実施等に関して必要な事項は、別に定める。

(第三者評価)

第11条 委員会は、評価機関より示された第三者評価の実施要項等に基づき、本学の対応について、その詳細を定め、各部署に点検評価の実施を依頼するものとする。

2 前項による点検及び評価の結果は、委員会が定める期日までに報告しなければならない。

(第三者評価結果の活用)

第12条 学長及び各部署の長は、第三者評価の結果に基づき、改善が必要なものについては、その改善に努めなければならない。

(実施細則)

第13条 この規程に定めるもののほか、自己点検評価、外部評価及び第三者評価並びにFDに関し必要な事項については、学長が別に定める。

(事務)

第14条 委員会の事務は、学園統括部総合支援課において処理する。

附 則

1. この規程は、平成20年7月1日から施行する。

2. 広島文教女子大学自己点検・評価規程（平成18年4月1日施行）は、この規程の施行日付けで廃止する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

別紙 2

広島文教女子大学ファカルティ・ディベロップメント専門委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、広島文教女子大学評価委員会規程第9条第2項に基づき、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）専門委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(任務)

第2条 委員会は、広島文教女子大学（以下「本学」という。）の高等教育機関としての教育機能の質的向上に向けた全学的な支援施策の企画・立案及び教員のFDの実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(委員会)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 大学院 2名
- (2) 各学科 各1名
- (3) 学長が必要と認めた者 若干名

2 前項各号の委員は、学長が任命する。

第4条 委員会に、委員長を置く。

2 委員長は、委員会を代表し、その業務を統括する。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した者が、委員長の職務を代行する。

4 委員会は、必要に応じ、委員長が招集し、その会議の議長となる。

5 委員会に小委員会を設置することができる。

6 委員長は、必要があると認めたときは、委員会以外の教職員を委員会又は小委員会に出席させることができる。

第5条 委員長は、学長が任命する。

2 委員の任期は、2年とし、再任は妨げない。

ただし、任期途中で辞任又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

第6条 委員会は、次の掲げる業務を行う。

- (1) 教育の質的向上に向けた諸施策の企画・立案及び支援に関すること。
- (2) 教員の研修等の企画・実施及び支援に関すること。
- (3) 授業の改善に関すること。
- (4) FDの啓発活動に関すること。
- (5) その他、FD活動推進のために必要なこと。

2 委員会は、FD活動推進のため、各部署に対して協力を求めることができる。

3 委員会は、FD活動の結果については、必要に応じ、学内外に広く公表する。

(実施細則)

第7条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、大学運営協議会の議を経て、学長が定める。

(事務)

第8条 委員会の事務は、学園統括部総合支援課において処理する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年7月1日から施行する。

- (注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
・「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）
・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>大学評価委員会の下部組織として、自己点検・評価専門委員会を設置し、年度ごとに自己点検・評価を行い、報告書を作成し、大学ホームページ上に公開している。この活動によって、大学に求められる適切な水準を維持し、建学の精神・使命・目的に基づいた教育目標を達成するための改善・改革が行われていると評価できる。</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <ul style="list-style-type: none">・平成19年度自己点検・評価報告書・・・公表済・平成20年度自己点検・評価報告書・・・公開済・平成21年度自己点検・評価報告書・・・公開済・平成22年度自己点検・評価報告書・・・公開済・平成23年度自己点検・評価報告書・・・平成24年6月公開予定 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none">・大学ホームページ上に公開 <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none">・平成24年度に評価機関（財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受審する。

(注) ・ 届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(4) 情報提供に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書</p> <p>a ホームページに公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)</p> <p>b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成 24年 6月 1日)</p>
